

炊事日誌——昭和六年度

〔表紙〕第十六期 昭和六年一月二十一日起 炊事日誌 山形県自治講習所

炊事当番、日誌項目及注意

一、火の用心、食堂、炊事場の清潔整頓

一、諸器物を丁寧に使用し、使用後は一定の置場に正しく置く事

一、当番者は明日の準備をなし引継ぎをなすべし

一、当番者は昼食パンの数を炊事主任まで朝食后報告すべし

一、当番者は米、麦、醤油、その他炊事用品物、残り少なくなるとる時は炊事主任に申出ずべし

記載事項、一、当日の献立、朝昼晩、品物、数量、口数

二、来客Ⅱ本所との関係、氏名

三、料理法、その他注意すべき事項、希望等

四、日誌は必ず当日記載し炊事主任の閲覧を受くべし

一、礼拝後各室の火鉢の火を集め風呂に入れて置く事、火の仕末を注意し嚴重にすべし

一、炊事当番は豚に給餌する事を忘るべからず、残滓は出来るだけ集めて与へよ、若し残滓なき時又は少なき時は、麩〔麩〕、米糠を調合して必ず給水すべし。

〔以下、謄写版刷りの炊事日誌用紙に記入してある。詳細は写真を参照されたいが、一通りの説明をしておく。一月二十一日～二月十一日（Aタイプ）上部に横書きで「火の用心」、月日と曜日、縦書きでの記入用に上下二段に分け、上段は献立、「朝（人）」、「昼（人）」、「晩（人）」。「朝は「飯米 升 合、麦 升 合」、「副食物」（それぞれ「匁」）、「香物」、昼は空欄、晩は朝と全く同じ。下段は「所感」、「当番氏名」三人分、「来客」と印刷されている。二月十二日～四月十一日は若干様式が変わる（Bタイプ）。四月十二日以降はBタイプの赤インク刷りである。人数欄と大部分の日付は算用数字、その他は漢数字を使用している。以下は、表形式に整えることをせず内容のみを紹介する。なお、一匁は三・七五g、五百匁ならば一・八七五kg、一貫は三七五kgである。句読点を適宜加える。検印は「須藤」。横書きの欄に算用数字が用いられている。横向きのままにした。〕

一月廿一日水曜日

朝 50 人、飯米四升、麦五合、大根五百匁、南瓜若干、もやし豆二把、油揚三枚、鯉罐一箇、味噌参百匁弱、大根漬十本
 昼 58 人、ジャムパン五拾八人分
 晩 58 人、飯米七升、麦参升、味噌五百匁、牛蒡二百五拾匁、馬鈴薯一貫、葱一貫、肉六百匁、大根若干、

〔晩の香物〕大根漬九本、味噌五匁出し〔味噌の部分に↑「正油」と赤ペンで訂正〕

所感

新入所生は新しき食器にて夕飯した。料理は下手で誠に済みませんでした。然し各自は今迄膳の上にて箸を取つて居つたのが、テーブルで然も団体にて同じ釜の飯を戴いた事に際して、各自は其処に新しき何等かの喜びは勿論として有る希望を持たせられた事と深く思はれました。御互に左の事に注意し合ひませう。

一、第一に火之用心を守りませう

一、全員の事を考へて日誌項目に掲げられたる如く清潔を重じませう

当番、佐藤三郎、八田又治、伊藤儀一

〔以下、月日、曜日、各食の人数、所感、来客（ある場合）、当番のみ記す。〕

1月22日木曜日 朝 56 人、昼 59 人、晩 59 人

所感

注意

一、炊事場に乱りに入る事を遠慮して下さい

一、御飯をテーブルの上下に落した時は自分で始末をする事が必要であると思ふ。

以上

来客 所長（パン一食、夕食一）、松田兄（パン一）、佐清（パン一食（飯）二食）、高

□兄（二食（パン一））

当番 石井、伊藤（正）、安達（弥）

1月23日金曜日 朝 56 人、昼 56 人、晩 56 人

所感 所感はなし。

来客 佐藤清見兄（三食）

当番 石井説雄、安達弥之輔、佐藤省吾

1月24日土曜日 朝55人、昼55人、晩54人

所感

炊事場の不仕末は当番者の人格を表すのであるから、何時見ても奇麗になつて居る様にする事。又残飯の事であるが、朝は必ず豚に与える事、之は炊事当番にあつた人の責任で有る。忘れ無い様にする事。今夜は天ぶらの為めに食事が遅れて諸兄には実に済まなかつた。今後は成可遅れ無い様にする。

当番 安達弥之輔、佐藤省吾、前田忠四郎

1月25日日曜日 朝50人、昼50人、晩50人

所感

日曜日にて余り忙しくも無かりき。今日農場産のライ麦粉にて初めてパン製造せるなり。実に美味にて皆な感心して食べる。形容は長方形にて実に一風変つたパンなりき。朝は米が不足にて全く驚いた。起きると早速米屋に電話をかけて持つて来て戴く。無くなつた場合は早速事務室に知らせたい。午后八時頃萩野の高橋先生が来所せり。昼はパン食に卵にて佳味に食す。

当番 佐藤省吾、前田忠四郎、吉田新平

〔月日は赤色〕1月26日月曜日 朝55人、昼52人、晩56人

所感

飯台の上を「ふく」雑巾を別にして「ふい」で戴く事にしませう。

〔以下は赤色で〕テーブル上をふく雑巾は別にしてある筈。注意、月日記入の事。

来客 高橋猪一先生

当番 前田忠四郎、吉田新平、柏倉忠右エ門

1月27日火曜日 朝55人、昼54人、晩54人

所感

今日は初めてライ麦パンにヂヤムを付け食す。実に美味であつた。

来客 「以下赤色」朝食高橋猪一先生

当番 吉田真平、柏倉忠右エ門、佐藤武雄

1月28日水曜日 朝54人、昼57人、晩52人

所感

今日は□れつの際は米飯で□□馬鈴薯であつたが、□□町の生青〔青年？〕団のかん
けい上馬鈴薯が□□□。

当番 朝倉、佐藤武、大沼

〔月日は赤色〕1月27日木曜日、朝52人、昼52人、晩52〔？〕人

所感

一、火の用心

二、炊事場を清潔にしませう

三、炊事当番の外はみだりに炊事場に入らざる様に御願ひ致します。

来客 「赤色」川村君夕食

当番 佐藤武雄、大沼三郎、押野登

1月30日金曜日 朝53人、昼53人、晩53人

所感

炊事当番初メテデ、飯ハカタクデキル時モアレバヤハラカクデキル時モアリ。皆様ニ
対シテ済マセント思ヒマシタ。助手様方エ迷惑掛ケナガラ一日送りマシタ。

当番 押野登、大沼三郎、長谷川与一

1月31日土曜日 朝53人、昼54人、晩44人

所感

昨晚礼拝をしてから室に帰ると週番をやつて居る高橋榮資君から「明日から炊事を頼
む」と言はれた時、私は「とうとう来る可き時は来た」と心中大いに勇躍しました。

炊事当番は所員五十余名の生命継続せしむる重任だから成る可く早く成る可く美味しく
同じ物を食べさせて力にりし分を増させてやらう等と大層な心を抱いて寝ました。だ
がいよいよやつて見ると中々理想通りに行かず聊か閉口の体でした。でも一日の炊事

で一人でどうやらやつて行ける様になった様で内心は苦んで居ます。炊事も一つの修養でした。私はさう思つて居ます。

当番 高橋岩蔵、押野登、森谷権之助、長谷川与一

2月1日日曜日 朝24人、昼40人、晩28人

所感

僕も二日炊事をしましたからたいへん要領がわかりました。何をするにも肝要、矢張炊事をやるにも用意周到にあはてないに限りません。お蔭で将来未開野蛮の地を踏査探検又は開墾するにも一人でやつて行けます。何故なれば炊事が出来るから。講習所では事々物々の修養と言ふ事をかゝげて居りますが、炊事をやつても大いに資する所、他山の石となすべき所多々ありました。大根づけ等も武道の精神を徹底したつもりです。二日間武道にも皇国運動にも出る事が出来なかつたが私は後悔しません。炊事でその任を全ふしたからです。少なくとも私はさう思つて居ります。

当番 高橋岩蔵、佐藤賢三、奥山貞夫

2月2日月曜日 朝25人、昼55人、晩28人

所感

一、炊事場はなるべく清潔にしたいものです。
二、炊事に入る品物はなるべく前の晩から用意して置きたいものです。

〔赤色で「行進曲である我等の真心事でありたい。誠心の反省でもありたい。家において炊事の任にあたらるゝ母姉方の苦勞を反省すると共に其の分担に邁進ありたい。〕〕

◎炊事行進曲〔赤色で「炊事当番者の真心事」〔高橋岩男君作〕〕「そして常に「感謝して粗食を味ふ」の境地に立ちて頂くべきだ」とある。」

第二のほうで炊事場に 向へば母の事思ふ

かまどに火をばたきつけて 野菜を洗ふその時は

故山の姉を思ひ出す 三日の任もとげし今 夜の眠りもまどかなり

当番 高橋岩蔵、奥山貞夫、佐藤賢三

二月三日火曜日 朝25人、昼53人、晩25人

所感

今年新らしい年になって初めの炊事当番も今日で三日を終ったがまだまだわからない事はあつて助手にも手をかりてやり又無事におわた事は助手大兄のおかげと思ひます。
当番 佐藤賢三、奥山貞夫、佐藤三郎

2月4日水曜日 朝26人、昼49人、晩55人

所感

三日も無事にすましたのは前日の通りなり。そして今年初めてのライスカレーで私等は大喜びだつた。大掃除ノ口トテ味格別。美味、美味。製法は助手に良くお聞き下さい。御互に研究致しませう。

当番 佐藤三郎、布施権三郎、柏倉正志

2月5日木曜日 朝33人、昼53人、晩80人

所感〔空欄〕

来客 平康ニ殖民スル短期講習会アリ。

当番 佐藤三郎、布施権三郎、柏倉正志

2月6日金曜日 朝約80人、昼約79人、晩約79人

所感

平康に殖民スル青年ノ短期講習会アリ（昨日ヨリ）。朝より雪降りだ。寒さも加つて来て水道の水はつめたかつた。

（何の事だかわからん）最初の献立としては良好であつた。

但し約八十人程の料理は骨が折れます。夜は鱈汁に舌を打つ。以上ヲ以テ所感トス。

当番 柏倉正志、布施権三郎、小関久夫、渋谷吉郎、黒沼四郎太

2月7日土曜日 朝80人、昼80人、晩79人

所感

炊事当番に当つて煙りにむせび常に何の心配もなく食してゐる時の心と較べてこんな困難がともなつて始めてうまい御馳走にありつけるのだと云ふ体験を得た。朝の水道の冷さは格別なものだつた。又難義〔儀〕して始めて何んなものでも特においしい事

が解つた。

当番 澁谷吉郎、黒沼四郎太、伊藤安男、遣水伊右エ門、小関久雄

2月8日日曜日 朝₅人、昼₅人、晩₅人

所感

家に居る時は七時まででもねて起されて食事をしますから、飯に小言を言ふ事がありました。自分が実際炊事に当つて見れば、朝も早く起き、煙りにむせびながら、又冷たい思いをして飯の出るのを持「待」ちて食事をするから腹がすいて居るので飯を食するのが美味である。又初めての炊事であるので、自分が飯を出したる後は、やはり家の人も難義であると言ふ事が初めて解りました。

当番 小関久雄、伊藤安男、遣水伊右エ門、菅野榮五郎、三浦貞雄

2月9日月曜日 朝₅人、昼₅人、晩₅人

所感

炊事当番にあたつて煙りにむせながら飯をたきながら、又は大根漬をあらふ時は実に修養になりました。家においては飯を食べるばかりであるが、自分が料理するに大それた難儀なるのを見て始めて親のありがたさをしりました。そうして当番の本領をつきました。

〔以下、長岡の筆〕炊事当番の本領を君はつくしたと思つて居るが僕から見ると未だ未だやるべき事が残つて居る。君の将来のため私よりたゆまざる追進をお願いいたします。長岡〔長岡の筆はここまで〕

短期講習生二十六名あり。

当番 結城傳治、伊藤安男、三浦定男、菅野榮五郎、遣水伊右エ門

2月10日火曜日 朝₇人、昼₇人、晩₇人

所感

馴れぬ僕が炊事当番にあたり、汁釜に火を付け立ち昇る煙にむせながら、長岡君にわからぬ点、種々御聴き致し、やうやく炊事事務をはたした事出来、僕が家庭に於て何等炊事もやらぬ。そうして毎朝呑気の食卓には只今僕が炊事当番に際し、大根葱牛蒡数々の食糧を整理致し、其の感非常なる苦しみを要する事を自覚致し、只今三日間炊

事当番も欠点なく修了致した事は全く長岡君の御指導の賜ものであります。

来客 短期講習生二十六名

当番 結城傳治、清野清三郎、三浦貞雄、神林武男、菅野栄五郎

2月11日水曜日 朝78人、昼130人、晩95人

所感

馴レヌ当番デ実ニ心配デアツタガ長岡助手殿ノ御丁寧ナル御指導ヲ受ケ、大略飯菜ノ調理ヲ修得シタ。朝ノ飯ハ釜ニ焼付、実ニ困ツタガ、夕飯ハ注意ノ結果少シモ焼付マセンデシタ。次ノ当番ヨリ助手ノ指導受ケズニ出来ル迄勉強致サウト決心シタ。

短期生二十六名

当番 清野清三郎、神林武男、結城傳治、武田正、和田栄造

2月拾貳日木曜日 朝89人、昼80人、晩81人

所感

米とぎ、水加減、火のたき方、総べてに於て不馴れの為長岡君よりは非常なる御世話様になりました。之で各当番を一通りやりました。自治寮生活も廿三日です。此の間に於て各当番をすまし、夫々各当番の任務を理解する事を得ました。此経験は実に貴いものと思ひます。次回よりは一層精励したいと存じます。長岡君並に各寮友諸君に厚く御礼を申述べます。

来客 朝一笑会先輩諸氏、晚高橋猪一先生

当番 武田正、和田栄造、神林武夫、金沢留吉、清野清三郎

二月拾三日金曜日 朝80人、昼80人、晩83人

所感

今回肇ての事とて何も知らず総て不馴にて、長岡さんや須藤さんには色々御世話に成り実に有難く思ひました。次回よりは少少の事は御世話を受けづに出来様と思つて居ります。

来客 一笑会長、高橋先生

当番 神林武男、武田正、森谷権之助、金沢留吉、石井正春

2月14日土曜日 朝57人、昼68人、晩44人
所感

米とぎ、米之水加減、火のたき方、総べてに於て手馴れない為、茂木君には非常に御苦労をかけ全く御世話様に相成りました。之で三日間に渡り当番を一通りやりました。当番を一通りやつたのではなく寧ろ習った。自治寮生活も早秘の飛よりも早く廿五日ヲ過ぎさりました。此の間に於て各当番をすると、当番の任務且つ責任は重大な事を始てわかりました。又理解する事を得ました。此の経験は実に貴い物と想つた。自治寮生活の炊事場でする仕事と飯汁等は昭和六年のスピート〔ド〕・モダン用利と名付ます。次回よりは一層精励したいと存じます。茂木君並に各寮友諸君に厚く御礼申述ます。

来客 高橋猪一先生、工藤源左エ門君、外短期生四名

当番 金澤留吉、森谷権之助、石井政春

2月15日日曜日 朝54人、昼60人、晩52人
所感

馴れぬ僕が三日間の炊事当番をどうやら失敗なく終へる事の出来たのは、一重に長岡君や茂木君の御蔭と厚く御礼申上げます。然し一つ遺憾とする所は、僕が今日二時前より部屋に眠つて居て夕食の炊事に遅刻した事です。之はしまったと炊事場に行つて見ると二君は一生懸命に仕事をして居られ、御飯も炊き加減になつて居りました。本当にすみません。今後は尚一層精励致しますから御許し願ひます。

当番 森谷権之助、石井政春、渡辺力

2月16日月曜日 朝51人、昼51人、晩51人
所感

何しろ五十幾人と云ふ大世帯である。俺達の家庭の賄とは桁が違ふ。それに家庭では何時もお客様然として母や妹達の料理を不味い等愚痴を云つてきた。自分でやつて見ると中々文句も云えぬものだなと感じた。米磨ぎの冷たさ、炊煙の煙たさにも確かに教はる所が多い。

来客 夜高橋猪一先生

当番 八田又治、渡辺力、鈴木米蔵

2月17日火曜日 朝52人、昼51人、晩53人

所感

炊事には一向知らない我輩は炊事当番の任に当り、助手さん達や又先輩の人々には非常に御難儀をかけたのは深く感謝し厚く御礼申上ます。炊事に取りかゝらないうちは何くれと心配して居りましたが、さて飯たき等をやつて見れば安〔案〕外に上出来になり喜びました。何事も安〔案〕ずるより生むは安いとのことです。次回よりは層一層奮発したいと思ひます。

自治寮生諸君、勇猛精進。

〔以下一行赤色〕大いに其の気概を徹底すべく第一戦に模範たるべし。

当番 八田又治、鈴木米造、渡辺力

2月18日水曜日 朝52人、昼52人、晩54人

所感

三日間の炊事も今日はいよいよ除隊だ。今朝は流石に寒い。昨晚の不用意から水道が凍りついて出ないのには閉口した。晩はライスアンドカレーのモダン料理、全寮挙げて大掃除、俺達も分担をまもつて精出した。助手さん達の懇切なる御指導を感謝しつゝ筆を擱きます。

来客 須藤兄婦所ス。

当番 八田又治、鈴木米蔵、樋口栄一

2月19日木曜日 朝53人、昼52人、晩43人

所感

初めての当番、馴れぬ炊事には最初より心配で自分では出来るかしらと一人心を痛めて居ました。それも束の間、長岡・茂木御両君の御親切なる御指導に依りまして大過なく務め得る事が出来ました。厚く感謝致します。

最初なれば心に感じた事も沢山あります。今まで食事を戴くにもさほど有難き心、感謝の念と云ふ事は僅少でありましたが、当番になつて、あの朝の米磨ぎの煙の中に目をしばたゝいて戴く時、真事に感謝の念に打たれます。次回からは一層此の責務の重大なるを感じ総べての事に注意して、良りよく当番の任務を遂行したいと思ひます。

食器の洗浄に付いて水をこぼさない様にしたいと思います。お互ひに迷惑でありますから注意ませう。

当番 樋口榮一、伊藤金治、菅原光胤

二月二十日金曜日 朝53人、昼52人、晩52人

所感

私は初めて馴れぬ炊事当番に当りました。長岡茂木両君の御指導に依つて何事と無く務めた事が出来ました。厚く感謝致します。私は今迄食事を戴く時には炊事の事柄等はさほど有難く思はなかつたが、当つて見るとあの冷たい朝の米磨ぎ、煙の中に目をこすりこすり出来上つた食事を戴く時は云ふに言はれぬ真当の感謝の念が湧て来ました。次からは一層総べての任務を誠心誠意で務め様と思ひます。

〔以下赤色〕今からやれ！〔以上赤色〕

当番 樋口榮一、伊藤金治、菅原光胤

2月21日土曜日 朝54人、昼53人、晩18人

所感

十九日以来三日間炊事当番に当りました。私は初めてで本当に心配でしたが、親切なる失敗もなく過ぎた事を心から喜びます。同時に厚く御礼申し上げます。今晚二十人余りの飯を炊くと良いのに四十人分の飯を炊いて本当にすみませんでした。今后気を付けますから御許を願います。

〔以下赤色〕土曜日から日曜日の当番者は帰宅者の有無を認める為め黒板を見て然る後ち適当に熟慮して御飯を焚くべし。飯を粗末にせざる事。〔ここまで赤色〕

当番 高橋榮資、伊藤金治、菅原光胤

2月22日日曜日 朝16人、昼17人、晩18人

所感

昨日から愈々炊事当番だった。入所以前家に居た頃は炊事にも相当なれて居つた積りであつたが、人数が多いので思つた様にはゆかない。炊事場の煙たさに閉口する。涙がぼろぼろだ。然しそこ大なる修養があるのかも知れない。あの煙さへないものなら炊事なんて中々愉快なものだ。最初の日なんか飯を焚く時自分のたい「た」飯の様に

は思へない位であつた。本日は日曜日で帰宅者が多い。なんとか帰宅者人数を知り得る方法はなきものか。食卓の上を一日でそれと知り得る様な。

〔以下赤色〕◎其れは卓上（自分）に不在ノ由明記して置くに限る。〔ここまで赤色〕
 来客 高橋猪一先生

当番 高橋榮資、佐藤健二、武田立男

貳月貳拾參日月曜日 朝 8人、昼〔空欄〕人、晩 3人
 所感

今日で炊事も最後の口だ。生木での焼きつけには常（何時）も閉口だ。家では松葉の枯れたので燃きつけるのに比したら中々もえつかない。それでもどうかこうか炊事当番も終へる事が出来た。感謝せざるを得ない。すべては皆様のお蔭に依るものだ。

〔以下赤色〕実に荘内、彼の広大無辺なる海、遙に東には山なる一海岸に住む清き海家の生活が思いやらる。山一ぱいの松葉の香、何んと云ふ限りなき神聖なる生活よ……高橋君の面目が存分に発輝してある。一重に故郷を偲び自発的に将来の高橋君を祈る。

〔ここまで赤色〕

来客〔赤色〕萩野移住者十七名、高橋猪一先生

当番 佐藤健二、高橋榮資、武田立男

2月24日火曜日 朝 68人、昼 68人、晩 65人

所感

日曜日からの炊事も今日で終りだと思ひつつ、仕事に取り係つたは良いが、朝からバケツの底が取れたりして不安だつたが、一日の仕事も無事に終えた。此れは助手さんの御指導が良かったからだ。感謝します。

〔以下赤色〕馬鹿ニ滑稽ナリ。バケツの底が取れたりさむくて涙が出たり炊事当番ならでは知り得ざる味ひ得ざる困難があり、努力がある。其れが又大なる修養の一つだ。我等は常に尊い体験となる。当番者は食べる多くの人の心を心として専心努力し戴く人は炊事当番の苦勞努力を思ひ感謝して戴きたい。〔ここまで赤色〕

来客 高橋先生、萩野移住者十七名

当番 佐藤健二、武田立男、石山正蔵、渡辺茂

二月二十五日火曜日 朝 2 人、昼 2 人、晩 2 人
所感

入所以来最初の当番で特に待つたる炊事当番も、月曜日夕食より当番に取りかかりました。最初は何をしたらよいかわからなかつたのですが、茂木君の御指導により初めました。今日は朝から冷たくて水道の水がとまりましたので、どうしたらよいかわかりませんでした。石井君の研究の結果、無事水も出てくる様になりました。又夜のカツレツの料理は初めて見ましたので、私の様な田舎者がたまげて見ておりました。炊事も無事私が終わりましたので、皆様御指導を厚く感謝致します。今後はなほ一層奮闘するつもりです。

当番 石井説雄、佐藤哲夫、渡辺茂、石山正蔵

2月26日木曜日 朝 2 人、昼 2 人、晩 2 人
所感

私は始めて入所以来炊事致しました。炊事と云ふ炊事がいやらしい感じが胸に浮んだけれど頗る面白い。何んだか僕の焚いた御飯を皆んなに食べさせる事だと思ふと愉快でした「横に赤色で「責任が重い」」。それも皆茂木君の御指導に依り重い責任を完了致した事は厚く御礼申します。願くは朝夜の煙に巻かれて涙が落ち「コスクリコスクリ」、短期日数を以て御蔭様にて三日間と云ふ三日も愉快に終り、其の三日間の事を顧り見れば嬉しく感じます。

「以下、赤色で「此の炊事精神をもつと日常生活に応用して戴きたい。必ず成功するを認める。」」

来客 萩野 高橋先生、萩野移住民十七人

当番 佐藤哲夫、石井説夫、斎藤好七、渡辺茂

2月27日金曜日 朝 2 人、昼 2 人、晩 2 人

所感

一、炊事場ニ乱レ入ル様デアル。成ルベク食器ハバケツニテ洗ツテ炊事場ニ入ラヌ様ニ願フ。

今日ハ御飯ノ方ハ馬鹿ニ不出来デ誠ニ申訳ハ御座イマセンデシタ。是一重ニ小生等ノ修業ノ足り無イ為、今後一意精神致シマスカラ何卒容謝下サイ。以上

来客 高橋猪一先生、外講習生十七名
当番 石井説雄、斎藤好七、前田忠四郎、佐藤哲夫

二月二十八日土曜日 朝⁶⁹人、昼⁶⁹人、晩⁵²人
所感

今日こそは昨日の不出来〔不出来〕の右横に赤色で「メツユ」飯を一掃して昨日の分を良く炊いて取り返してやろうと我々は決心し、米磨ぎにかゝつた。手は飛び抜ける程冷めたい。然し僕等は武道時間の指の冷たさを思ひ出し、今に火をたいてあたるべしと思ひ、釜戸の火に意を強め愈々火を炊き出して、今度こそはと待ちに待ちたる御飯を炊き出したが、まだ私の思ひ通の飯ではなかつた。皆はこの位なら上等の方でせうと云つて居る。其処で私は考へた。世の中もこれと同様に思ひ通りには行かぬものなり。うむ、これで今日は充分としやうと又仕事を急いだ。

来客 高橋猪一先生、外講習生十七名（昼迄）
当番 前田忠四郎、吉田新平、朝倉忠右衛門、斎藤好七

3月1日日曜日 朝⁷⁸人、昼⁷⁰人、晩⁷⁷人
所感

今日は萩野移住講習会も終了したので、炊事も或る方面から申しなれば楽になつたと云へ様か。三日間の前田兄の活動は実に良好なり。事に釜洗ひ等は拔軍なる奮闘である。何時も此の精神にて事に当るべし。我々は事々物々に就いての修養が最も能い信念を得る事と信じてゐる。（茂木）

当番 前田忠四郎、朝倉忠右門、吉田新平

3月2日月曜日 朝⁷⁸人、昼⁷⁶人、晩⁵²人
所感

今夜ハ我等ノ焚キタル飯ヲ所長先生ト赤間先生ニ食テ戴ク。我等モ愉快ニ食スル。余モ本日ニテ第二回目ノ炊事モ終ル。

来客 夕食所長先生、赤間先生

当番 武田正、朝倉忠右門、吉田眞平

3月3日火曜日 朝^あ人、昼^ひ人、晩^{ばん}人
所感

朝五時二十分頃より炊事にかかり、六時半頃は飯は出来、武道も終り近く成つた時、工業学校寄宿舎の鐘が鳴つた。今日は負けたなと思つたら、それはまだまだ起床の鐘であつた。彼等は今頃の起床では尊き一日を全部終らす事が出来ようかと思つたきりであつた。

〔以下赤色〕下らん工業学校寄宿舎の感想等記すべきにあらず。もつと意義有る所感を述べべし。〔ここまで赤色〕

来客 なし

当番 佐藤肖吾、長谷川与一、武田正

3月4日水曜日 朝^あ人、昼^ひ人、晩^{ばん}人
所感

炊事当番も二回目だ。第一回目は何をしたら良いかさっぱり分けが解らなく、又めつこ飯を焚くかと随分心配したが、もう漸く飯焚きも自信が付いて来た。今日も予定の任務を終へて鐘を鳴らしと一同笑顔で食堂に向つて来る有様、自分は実に愉快だつた。献立表の醤油が正油と書いて居る様ですが、これでも良いのですか。

〔以下赤色で〕醤油が正しい。こう字を書くべきである。〔ここまで赤色〕

来客 なし

当番 武田正、長谷川与一、佐藤省吾

3月5日 朝五十三人、昼五十一人、晩五十一人

所感

私は入所以来炊事当番二回目です。此の前の炊事当番の時ハ無〔夢〕中で三日間を暮したと思ふとなくなさけない気が致します。今度の炊事こそ米をといでかまに入れて見た米の水を入れるのがわからないので、茂木君より又御世話になりました。朝晩寮歌を歌ひ元氣よく三日間の炊事をやりました。

〔以下は赤色で〕僕ノ足ラ又点ヲ厚ク御詫ビ申上ゲル。〔ここまで赤色〕

来客 自治講習所卒業生二人（朝）

当番 佐藤省吾、長谷川与一、伊藤正憲

三月六日金曜日 朝五十一人、昼五十一人、晩五十一人

所感

僕は炊事四日目です。一日犠牲になつて炊事をしました。炊事当番四日間位すると大体がわかります。「以下赤色」犠牲に非ず、当然なすべき□事を為終へたるのみ「赤色終了」。炊事当番は伊藤正憲君、大沼三郎君いづれも元氣のよい者ばかりで疲れるのはすれて元氣で四日間を暮しました。「以下赤色」炊事も武道も掃除も根本に於何等異なる事なし。天晴れの意氣こそ肝要なれ。「ここまで赤色」

来客 なし

当番 長谷川與一、伊藤正憲、大沼三郎

三月七日土曜日 朝五一人、昼五一人、晩五一人

所感

諸君、自分ノショツキハ綺麗ニシテオク事

「以下は赤色で」字をもつと丁寧にかけ。薪ヲ余リ沢山釜ニ入レルト火ト見エテモ実ハ煙デアアルノデ御飯ハメツコ飯ト来ルノデアアル。「ここまで赤色」

来客 なし

当番 大沼三郎、和田栄造、伊藤正憲

三月八日日曜日 朝五一人、昼五一人、晩五一人

所感

第二回目炊事当番ニ当リマシテ自分心カラ面白ク炊事ヲ送ラウト思イマスガ、中ニ一人デモ面白カラシ人ハ居マスト面白イ一日ハ送ラレマセン。古語ニ云フゴトク朱ニ交レバ赤クナルトハ良ク云ウタモノナリ。二回目ダカラ米トギ火タキ漬物切りモ大分良クナツタト思イナガラ三日ヲ送リマシタ。以上

「以下赤色で」大沼君ノ大根切りハ実ニ見「目」覚シイ。沢庵切り博士ト云フテモ悪クナイ。今夕和田君ハ四時過ギ帰ツテ来ル。全ク手ニオエン。宜敷ク自重スベキデアル。「ここまで赤色」

来客 なし

当番 和田栄造、黒沼四郎太、大沼三郎

三月九日月曜日 朝⁵人、昼³人、晩⁶人

所感

炊事は出来るだけ一生懸命にやるつもりです。第一火の要心の注意、第二清潔、第三食器を充分に洗ひませう。

〔以下赤色〕未だ未だ心算〔ツモリとルビあり〕では到底駄目だ。気分を冷静にして考へる必要を認める。其して与へられた分担に黙々として実行すべきが自治寮生活の本旨であり、自己修業が第一である。〔以下まで赤色〕

来客 なし

当番 和田栄造、黒沼四郎太、安達弥之助

三月十日火曜日 朝⁵人、昼⁶人、晩⁵人

所感

炊事当番も漸く慣れて来た。今日の晩に旧県会議事堂で陸軍記念日を祝ふべき為になる活動写真があつた。吾等一同も見に行つてもよろしいと云ふ事に成つたので臨事〔時〕に炊事の方ハ三人を応援して急ぎ五時迄に出す。又明日のカツレツの準備とて六貫目の馬鈴薯の皮を剥く。笹の縁が取れる（一ヶ）。パンの食ひ残すを入れて置く筈が一杯に成りましたが何と致しませうか。

来客 なし

当番 長谷川與一（臨時）、黒沼四郎太、安達弥之助、奥山貞夫、伊藤安男（臨）、菅野栄五郎（臨）

三月十一日水曜日 朝⁵人、昼⁴人、晩⁵人

所感

炊事当番以外は炊事場に立寄る事を禁ず。事に朝の掃除終へるとである。皆水で掃除をするのであるから人が冷めたい事は無い訳です。自己の修養と思つてするとそう冷めたくも無い事と思ふ。炊事当番にあつた人で上草履をはきて土間に降りぬ事、特に気を付ける事。病氣の人で部屋に食器を持参したら同室の人に頼んで食道に返し置く事。何時も炊事場を清潔にして置く事。

来客 なし

当番者氏名 安達弥之輔、奥山貞夫、押野登

三月十二日木曜日 朝⁴⁹人、昼⁴⁶人、盤⁵⁰人

所感

今日は吾等炊事当番に当りて皆んなに実に御気の毒を致し真に済みませんでした。夕飯はめつこ飯で本当に済みませんでした。今日は大掃除で炊事場を清潔にしてみました。夕飯は本当でなかったが実においしかった。今後は注意して炊事に努力致します。夕飯は沢庵がなくなつて明日は何をしようか。

〔以下赤色〕少々水不足と火のたき方がいけない様だ。〔以上赤色〕

来客 高橋猪一先生夕飯

当番 奥山貞夫、押野登、伊藤安男

三月十三日金曜日 朝四九人、昼四六人、晚四九人

所感

第一回目も満足を与へず、又第二回と決心して居つたが又二回目もやつて見ると皆さんに不満足を与へて済みません。今度よりは真剣にかかつて満足与へ様と深く決心しました。

〔以下鉛筆〕晩の御飯は非常に能く出来ました。此れも研究の宜敷を得、真剣味の表現である。然し未だ研究の余地あり。

来客 なし

当番 押野登、伊藤安男、遣水伊右エ門

二〔3〕月14日土曜日 朝⁴⁹人、昼⁴⁸人、晚⁴⁸人

所感

朝寝坊の私、今日も起床の太鼓に起されました。そして禊を行ひ、稍天晴なる気分にて炊事に取掛りました。手馴れぬ事で炊事同志の御世話をして戴きまして、此々に大過なく三日間の当番の任務を終へる事が出来ました。而しながら此に顧り見ればメツコ飯を差上げた事もある、又は御汁の不出来なのも差上げた事もある。実に申分けありません。今後は充分に気を付け、尚一層努力して追進に追進を重ね、皆さんの御満足する様務める覚悟であります。

来客 なし

当番 伊藤安男、小関久雄、遣水伊右工門

2〔3〕月10日日曜日 朝51人、昼57人、晩58人

所感

朝寝坊の僕は太鼓の音に目をさました。いそいで禊を行ひ、元気に炊事に取りかかり、同志の御世話を戴きました。今日三日間の当番の任務にあたり、此々に顧り見れば飯のやはらかいやら御汁の煮方の不充分なるものを差上たのは申訳ありません。

今後は充分に気を付け尚一層努力して追進に追進を重ねる覚悟であります。尚又御一同様には昼のパンの時に食器の充分に洗ふこと、又、引出ノ中をきれいに洗つて戴くやうに御願申上ます。

来客 なし

当番 三浦貞雄、小関久雄、遣水伊右工門

2月16日月曜日 朝51人、昼49人、晩50人

所感

最初当番に当りし時は何も知らなかつたが、二度目の時は飯の火の引き具合、又汁の水かげん、飯の水かげんは能くわかり、目コ飯の出す様な事のなくなつたのは皆助手さん方の御蔭と深く感謝いたします。又自分も飯を一人で出されると思へば炊事場のけむにつつまれながらもとても面白くなりました。

来客 ナシ

当番 小関久夫、三浦貞雄、佐藤哲雄

3月17日火曜日 朝51人、昼58人、晩57人

所感

朝禊をなし直に炊事場にかけて附きました。第一回目の時、なれぬ僕が種々御世話になり漸く炊事当番の行ふ一通を吟味いたしました。其の型式をわすれずに第二回目の只今の当番各事分担され着々取りかゝり三日目には一人で飯釜の水のかげん、各事僕が指導いたしが、予定如く着々出来上り非常に趣味深く感じました。飯の具合も良く出来炊事当番も大過なく果しえた事、此等一心同体に働いて頂いた結果と感謝致します。

す。

来客 ナシ

当番 三浦貞雄、佐藤哲雄、佐藤武男

3月18日水曜日 朝51人、昼46人、晩51人

所感

前の炊事当番の時は何もわからず只ぼやぼやしたのがたゞつて、今度も何となく要領を得ない。仕事がまごつく毎にだんだん興味を覚える。「以下赤色」真心こめて炊事当番の任務を果し事こそ肝要なれ「以上赤色」盲目飯を炊いてやろうか。汁を少なくしてやろうか。そしたら皆んながどんな顔をするだろうか。一寸見てみたい。ぐつぐつ言ったら「事々物々につきての修養」と叫んでやつたら……なんて色々の事が頭をかき廻る。頬かむりして絆纏を着て竈の前にどつかり腰を下してアーアなんてゆつくりした気分でおられるのは、炊事当番にのみ許された特権だなあ等と考へてゐるうちにもめつこ飯が出来ねば好いがなあと心配になると、にはかに水の神秘と火の神様を拝みたくなる。

来客 なし

当番 佐藤哲夫、佐藤武男、渡辺茂

3月19日木曜日 朝51人、昼46人、晩52人

所感

炊事当番も二回目だが一回目は何をしたら良いかわからなかつたが、二回目にはいっこう解らなく責任が重大であつた。又飯を焚く時はめつこでもなるかと心配したがもう漸く飯焚きも自信が付いて来た。

来客 秋田県の人一人

当番 佐藤武男、渡辺茂、伊藤金治

3月二十日金曜日 朝51人、昼46人、晩39人

所感

私は炊事当番が二回目です。第一回目の時は助手君と共に炊事を初めたので安心して一回目は終わりました。今度は助手君もいないので我等三人で炊事を初め一番心

配を致しましたのは御飯の事でした。「メッコ飯」を焚くではないかと私は一番心配致しました。余は心配としては有ませんでした。

〔以下赤色〕武道の打込みの持続にあり延長に外ならない。此の責任は実に真剣である。吾々として厚く感謝する。然し少々日誌のマズイのが遺憾である。もつと綺麗を旨とせられたい。

来客 帰宅者多し〔以上赤色〕

当番 伊藤金治、柏倉正志、渡辺茂

3月21日土曜日 晴 朝³⁹人、昼⁴⁰人、晩¹⁰⁰人

〔上部欄外に赤色で〕朝鮮移住者出発式〔以上赤色〕

所感

炊事当番も漸く慣れた。今日は平康行きの人々は天晴れの心分で此の自治寮の食堂で数十名の人々は顔と顔と見合して食事されるので、臨時炊事に三名応援して急ぎて三時半迄に出す。吾等一同は停車場迄見送り平康行きの人々の態度を見て私は常に反省され、大いに自覚して天晴れの心持で奮闘したいと思ひます。

臨時、渡辺力、金澤留吉、石井政春〔以下赤色〕今日大勢なので本当に炊事当番は御苦労でした。感謝致します。

来客 朝鮮移住者出発式移住者夫妻外先輩も約六〇名〔以上赤色〕

当番 伊藤金治、清野清三郎、柏倉正志

三月二十二日日曜日 朝³⁵人、昼³⁰人、晩⁶⁰人

所感

私モ炊事当番ハ二回目デアリマス。第一回目ノ時ハ助手君ト一所ニシマシタガ、今回ハ我等未熟ナル者バカリ致シマスノデ、自分等分担タル此ノ当番ヲ完全ニ果スベク取リカ、リマシタガ、思フ通りデキズ皆々様ニ不愉快ナ思ヲ致サセマシテ、実ニ申訳アリマセンデシタ。

来客 先輩三人、〔以下赤色〕本所卒業生〔以上赤色〕

当番 石山正蔵、柏倉正志、清野清三郎

三月廿三日月曜日 朝⁴⁵人、昼⁴⁴人、晩⁴⁹人

所感

第貳回目の当番であるので前回よりは余程馴れた心算でやつたが、総べての点についてはまだまだ努力と向上とを要する事を痛感しました。飯をおいしくするも悪くするも、又汁の塩加減も、すべて細心の注意を払ひ、出来得る限りよく出来る様努力すべきであると思ひます。今朝よりは新入寮友安食君も一つに食事をとられた。寮友の増した事を嬉しく思ひます。

◎不馴れなる炊事の業も二回目のおつとめ果せる今日の嬉しき

◎紅の頬に笑ふくみ手伸しげに炊事をいそぐなぞゆかしき

来客 萩野移住講習生四名

当番 菅野栄五郎、石山正蔵、清野清三郎

三月二十四日火曜日 朝 ㊦ 人、昼 ㊦ 人、晩 ㊦ 人

所感

自分等の分担されたる此の当番は二回目であります。最初よりは少し馴れて居りますので皆様に満足の出来る様に努めましたが何分思ふ様に出来ず、皆様に満足致させる事のできなかつたのは、実に遺憾な思ひがしますが、何事も皆修養、此の次には皆様に満足の出来る様に心掛けます。思ひついたのは竈の煙突掃除の事です。掃除をしてよく燃へる様にすれば薪の経済も取れ又仕事も早く出来ると思ひます。掃除をしなれば薪は煙ばかり出て良く燃へず煙の為に作業も充分出来ないと思ふ。諸具類が皆完全な物ばかりで我等の作業を大いに助けてくれるのは感謝致します。

来客 萩野移住講習生三名

当番 菅原光胤、高橋栄資、菅野栄五郎

三月二十五日水曜日 朝 ㊦ 人、昼 ㊦ 人、晩 ㊦ 人

所感

薪が不乾燥なので煙で目が痛んで思ふ様に仕事が出来ず。軍隊で用ふる煙幕も斯様なものであるのかしら。一番心配なのは飯たきなり。然し余程自信が付いた。第二回目の当番も十分とは云へないが、七分目通り位迄は出来たつもりです。後の三分を今後一生懸命で成し果たし百パーセントにする様ベストをつくす覚悟であります。今日は昼にジヤムパンを全員が食しニコニコ顔!! 入所当時の有様を思ひ出す。夕食のカツ

レツは僕にとつては最初の仕事でありました。何もわからず手伝をしてもらい誠に有難く感謝致します。（菅野君ニ変リテ柏倉）

〔以下赤色〕今日の夕食炊事は本当に御苦勞様でした。残り三分徹底的に実現して戴きたい。（以上赤色）

来客 萩野移住講習生（補欠）三名

当番 菅原光胤、高橋栄資、菅野栄五郎

三月二十六日水曜日 朝 人、昼 人、晩 人

所感

魚汁は今日始めて何も解らず、手の付け様もなかつたけど聞き聞きしてどうやら味の付いた汁が出来た。四校時に生徒達は武道で遅く、終りて汁の熱いのを食べさせたい計に遅く飯や汁が遅く盛つたので、生徒達は文句を云ふ人さへあつた。其の時は俺は憤慨した。生徒達の為にと思つてやつた仕事に文句を付けられては、亦食事の鐘を誰か振つた人が居つた。出来ない中にそれで皆押寄せて来た。實際困つてあつた。

来客 〔赤色で〕受講者三名

当番 高橋栄資、鈴木米蔵、菅原光胤

三月二十七日金曜日 朝 二人、昼 二人、晩 二人

所感

二回目の当番だ。そして今日は第二日目である。昨日一日の長かつたので少し呑気にかまえて炊事場に行つて見ると、もう樋口兄がいそいそと米とぎをしてゐる。寮歌を張り上げながら今日も愉快に不束かながらも暮した。夕餉の時に二人の見知らぬ客人が来られた。我等は何にかまはず「イタダキマス」と乱暴に箸をとつた。二人の客人は俯いて何か冥想してゐる。私は痛烈に感を深クした。彼等は何を反省してゐたのか？其れは植物の大恩感謝を念じていたのでせう。

来客〔赤色で〕秋田県ノ某農学校長外一名ノ教師、萩野補欠講習生〔ここまで赤色〕
当番 樋口栄、渡辺力、鈴木米蔵

三月二十八日土曜日 朝 二人、昼 二人、晩 二人

所感

此の度の当番は非常に気物〔気持？〕よく暮す事が出来た。何故であらう。それはお互ひに各自の分担を守つて呉れたものと思ひます。飯焚くにも今度は自信がついてきました。自分にはすべての事が即ち事々物々の修養であります、一寸した野菜即ち大根馬鈴薯の様なものの切り方まで其の切り方・料理方の如何に依つて皆の人に満足を得しむるのかと思ふと痛切に責任の大なる事が思われます。此の次は追進に追進してより能く皆に満足の出来る様にしたと思ひます。

◎炊事場に余り用のない人が入れない様に、尚食器洗滌は出来得るだけ、食堂にして下さる様お願ひします。

来客 秋田県の農学校長及び教師、萩野講習生三名

当番 鈴木米蔵、渡辺力、樋口榮一

三月二十九日日曜日 朝⁵⁰人、昼³³人、晩³⁰人
所感

此の前の炊事に失敗をしました。私は此の度こそと一生懸命に努力をした結果、此の前の炊事よりは良く出来ましたので、非常に愉快に三日目の炊事も終わりました。此れ即ち此の前の経験又為さんとする仕事に対して自信を持ちた結果と思ひます。人々の立派に為し得る仕事に対して自分が其の人の仕事を為す事が出来ないと落胆をしたら、仕事は成功するものではない。人の為す仕事なら何事も為すと云ふ信念を以てしたならば望みを達する事が出来るものと思ひます。

〔以下赤色〕必ず為すと云ふ精神が最も肝要であり、人間としての念願である。此の精神を養ふには一ツの信仰、信念がなければならぬ。〔以上赤色〕

来客 秋田農学校長及び教師一名、萩野講習二名、小松君

当番 樋口榮一、鈴木米蔵、渡辺力

三月三十日月曜日 朝⁵⁰人、昼⁴⁷人、晩⁴⁷人
所感

今日夕食の時に自分等の未だに造つた事の無い肉飯を仰せつけられ、途方に暮れて居る処に須藤さんの御手伝は真に私等に取つては救ひの神で有りました。食事の時に一同喜々として笑つて食するのを見て私も安心せり。

来客 先生方四人〔以下赤色〕□の先生にも馳走

当番 布施権三郎、伊藤正憲、石井政春

三月三十一日火曜日 朝⁵⁰人、昼⁵⁰人、晩⁵¹人

所感

諸兄等一同ハ夕食ノ塩クヂラヲ余リコノマナカツタ。以上ナシ。

来客 なし〔以下赤色〕茶話会

当番 布施権三郎、石井政春、伊藤正憲

四月一日水曜日 朝⁵¹人、昼⁵⁰人、晩⁵⁰人

所感

炊事当番も三回したので、余りまごつかない様になつた。然し夕食のライスカレーには面くらつてしまつた。僕等はどうするのかわからず困つて居たが、茂木君が来て教えてもらひ、やうやうこしらへた。第一回には失敗し第二回目に苦心して出来ました。夕食は特に米も一升増したのだが、食べる食べる、ペロリと全部平らげてしまつた。苦心して作った丈けに僕は一層うまく感じた。何事も苦心の後に真の喜びあり。尚、一層勉強致します。

来客 なし

当番 伊藤正憲、石井政春、森谷権之助

四月二日木曜日 朝⁵⁰人、昼⁵⁰人、晩⁵¹人

所感

食後に炊事当番以外の人が炊事場に入る様になりました。当番以外の人は入らない様に御注意を御願いたします。

来客 なし

当番 金澤留吉、齋藤好七、森谷権之助

4月3日金曜日 朝⁵⁰人、昼⁵⁰人、晩⁵⁰人

所感

私炊事当番は今日で三回です。そして面白く炊事の仕事も目気目気はかどります。それは個人個人の分担に対して真心から追進するからであると私は痛切に感ぜざるを得

ない。それだけみんなが自覚し自治寮生活に興味を持った事と思ひます。飯の火焚き、沢庵漬切りにしても又馬鈴薯の皮をむくにも皆々得意になった。得意に成つたのは真心の表現に外ならぬ事と思ひます。一番コハイのは飯の水加減です。それで水加減に一層努力致します。以上

〔以下赤色〕「所長先生のお話にも有る通り得意になつてはならぬ。失敗は得意より生じる大いに慎しむべきであると存じます。」「信念は強く得意は禁物」〔以上赤色〕

来客 来客（朝）一笑会長高橋猪一先生

当番 森谷権之助、齋藤好七、金沢留吉

4月4日土曜日 朝^ハ人、昼^ハ人、晩^ハ人

所感

日増に暖くなりまして、朝早く炊事場に入つても何となく仕事に着々と手がつく様になりました。飯の煮立ち方も今では余程早くなる様になつて、何もかにも前よりはずつと變つて大氣の恵みと共に我々の仕事も是に従つて追進が出来た様に感じます。今日の夕飯は天ぷらをしたので少し遅れた。皆なが教練をなして帰つて来てすつかり腹をすかして来た。時々炊事場に顔を出しては「まだか」「まだか」と言つて出て行くのを見ては、我々は非常に気の毒に思つて益々仕事に励んで漸く出かして笑顔で有難く食事を戴きました。

来客 無し

当番 金沢留吉、高橋岩蔵、齋藤好七

四月五日日曜日 朝^ハ七人、昼^ハ七人、晩^ハ七人

所感

作〔昨〕日は金沢君齋藤君の二名を頼りに仕事をしましたが、今日は一日の兄とあつて頗る責任の重大さを痛感しました。

朝の炊事は見学に行く都合があるので皆協力して早く出す様に勉強しましたので八時一寸過ぎに食事が出来ました。

晩の炊事は見学を終つて帰ると大江、阿部の両君が炊事をして居られたのには、厚く感謝する。此の両君が余り急いだのと不馴れのため、危くメツコ飯になりさうになつたのを、齋藤君が甘く出来かして呉れたのは実に有難かつた。尚出し方の遅かりし事

を謝す。

当番 高橋岩蔵、安食喜一、佐藤賢三

4月5〔6〕日月曜日、朝50人、昼48人、晩51人

所感

注意

食器が一般に不清潔デアリマスカラモツトキレーニ才願ヒシマス。
まづくて飯をもるにもきのどくのやうな者は大部分なり。

来客 一人

当番 高橋岩蔵、佐藤賢三、安食喜一

4月7日火曜日 朝53人、昼52人、晩53人

所感

今晚の汁は美味なり。須藤さんがヴェタミンの研究中に考案しものである。皆んなも柔剣道の練習後であるのでうまそうに皆んな食べた。科学炊事三人は皆んながうまそうに食べるのを見て気分もよく安心した。こんどこそはと良くときつけると手足腰も休める事が出来ない。無事に終わった事は一心同体の結果と思ひます。

当番 佐藤賢三、安食喜一、柏倉正志

四月八日水曜日 朝52人、昼53人、晩50人

所感

今日は午後から寮友一同が軍隊に行かれ私たちが残留してやりました。カツレツは初めてですつかり面食つた!! それに薪がよく燃えないので、けむい、涙が出る……須藤さんには万端非常なる御世話様になりました。誠に有難くお礼申し上げます。

今日は今迄にない尊い経験をえました。此経験を栗として追進します。

〔以下赤色〕◎カツ（カツレツ）よりも美味しと食べし友の姿の（□が自分には嬉しかった。）〔赤色ここまで〕

△火が燃えず涙いづるも一修業

△カツレツやじやがたらにも舌つゞみ

〔以下赤色〕煙むくとも銃とりひねもす一すぢに励む友々思ひやりせば〔赤色終わり〕

当番 渡部力、柏倉正志（朝）、大江卓見、阿部美雄〔大江と阿部が〕（晩）、清野清三郎

四月九日 木曜日 朝^〇人、昼^〇人、晩^〇人
所感

豆飯に不馴な僕達なので、須藤さんが自ら率先して僕達に御教被下たので、非常に美味しく出来ました。寮友が腹がすいて帰り膳に付けばいつものと変り飯なので目を白黒し恍惚として御飯を見つめて居ります。助手さん達がこないなので腹がすいても手を出しかねて居ります。一同揃つて箸を取り飯を食べました。此れ即ち共同生活に最も肝要な事であります。

当番 清野清三郎、柏倉正志（朝）、大江卓見、阿部美雄〔大江と阿部が〕（晩）、渡部力

4月10日 金曜日 朝⁵³人、昼⁵²人、晩⁵⁵人
所感

寮友諸君一同聯隊に行かれて終日教練をせられしを思ひて

・のどかなる春の日和を身にあびて つとめ雄々しき自治寮の友

偶感三首

・あしはらの国の栄に尽さなん いざ諸共に進め益良夫

・とこしへに弥栄えなん日の本の 神ながらなる道のまにまに

・葦原の世の荒浪にかちとりて 理想の郷に追ひ進まなん

〔以下赤色で〕

寮友なき自治寮に風呂炊事両端を引受けて

・何事も我が身一つに引受けて 力の限り励み励まふ〔以上赤色〕

来客 高橋猪一先生

当番 渡部力、武田正、大江卓見、阿部美雄、清野清三郎

4月11日 土曜日 朝⁵⁰人、昼⁵⁰人、晩⁵¹人

所感

飯も良く出来た様であつたし又不足なく朝は高橋先生と一所に朝日の差入る食堂で気

持良く食べました。食後は聯隊へ行く迄と一生懸命でやったが少し遅れ、夕は炊事もせず朝のしまつ迄していただいて、実にすまなかつた。「以下赤色」（有難う御座いました）（「ここまで赤色」）

当番 渡辺力、朝倉忠右衛門、小関久雄、武田正、清野清三郎

「このページから、用紙の印刷インクが赤色となり、上部に横書きで「当番者ハ当日礼拝迄記載ノ上炊事主任ニ提出スベシ」と書かれている。また「火の用心」は「火之用心」となり、「曜日」が「曜」となった。」

4月12日 日曜 朝52人、昼52人、晩52人

所感

私は今日金井村視察に居きまして実に驚きました。私もお腹がすきましたのでうまくたべました。

「以下赤色で」見学に行つて来た当番の人と居残つて炊事をやつて呉れた人、互に夕食の後始末をやらうとして居る様子を見て、見学に行つて来人は当番があるのに、少々の疲れで居残つた人にすまないと云ふ誠心、居残つた人達は疲れて居るだろうと温かい友情、凡てが斯くありたい。そこに舞ひ上げがあり神あそびがあると思ふ。「赤色ここまで」

来客 新入生齊藤君

当番 渡辺力、小関久雄、朝倉中右エ門、長谷川与一、清野清三郎

4月13日 月曜 朝51人、昼52人、晩52人

所感

私は第三回の炊事当番であつて面白く炊事を終わりました。軍隊生活の終りの日であつて午后から聯隊長殿から御話ありました。五時頃からカーバイト工場を視察した。

注意「赤色で、「書くよりも自ら其の任にあたつて模範となるべし」とある。」

一、食器をきれいに洗ふ事

一、食器を炊事場きて洗はないように御願します。

来客 なし

当番 渡辺力、長谷川与一君、小関久夫、朝倉忠右エ門、清野清三郎

四月二十四日 火曜 朝⁵¹人、昼⁵¹人、晩⁵³人

私は第三回目の炊事です。自治寮生活に一度きりない餅の日に僕は当番に当たったことは此の上もない喜びです。僕等は餅の事については何にもしらないので、一寸心配な気がしました。

茂木君より種々と御世話様になり厚く御礼申し上げます。

〔以下赤色で〕一心同体、『黍餅も一つ一つの粒々をねり合てぞ餅とこそあれ』

今日の餅は実に美味でした。残り少なの自治寮生活に万金の努力を乞ふ。遅く迄御苦労様でした。〔ここまで赤色〕

来客 所長先生、五十嵐先生

当番 長谷川與一、鈴木米蔵、神林武男

四月十五日 水曜 朝⁵²人、昼⁵²人、晩⁵²人

〔以下は、朝の欄の赤色の加筆〕病人が発生したので特別に炊事が忙しい、実に鈴木兄御苦労様でした。

〔以下は、昼の欄の赤色の加筆〕黍の奴の祟りで飛んでもない目に遇った。此れも物々に就いての修業と思へば返つて有難い〔赤色ここまで〕

所感

朝の武道の時間に皆な山形市南端の八幡様迄往復約二里の駈足でした。俺達は分担を守り炊事で居残つた。昨日の黍を入れたので飯が焼着いて不味かつた事をお詫びします。第三回目であるが中々能率のあがらぬのには閉口した。労力の分配が悪いのだと知つた。農家の経営に於ても然りと思つた。昼のバターには五六人だが不味い顔をしておる人がある。兎に角何事でも食わず嫌いではだめである。ライスカレー、こう云ふモダンな料理に不馴な俺達は茂木兄から色々教はつた。感謝いたします。柔道の写真うつしや剣道の試合があつたので替りの諸兄に手伝つて戴いて誠に御苦労様でした。弥栄八号か加藤先生の整理と云ふことについて書いてあるのを読んで感じました。自分の環境をよく整理しよう。〔以下赤色で〕「誠心を一本のまきに打ちこみて、自己の使命をはたす炊事当番」〔以上赤色〕

来客 なし

当番 神林武夫君、長谷川與一君（午后病気代りニ菅野栄吾郎君）、鈴木米蔵

四月十六日 木曜 朝⁵⁰人、昼⁵⁰人、晩⁵⁰人
所感

日増に暖くなりまして、朝早く炊事に入つて何となく仕事に手がつく様になつて、何にも何にも前よりはずつと進んで、大氣の恵と共に我々の仕事も是れに従つて追進が出来た様に感じられました。僕はすべてに気を付けて尚一層努力して追進に追進を重ねる覚悟で有ます。皆人には非常に氣の毒に思ひ益々仕事に励んで漸く出かして笑顔で有難く食を戴きました。

◎歌 不馴れなる炊事の業の二回目につとめ果せる今日の嬉しき

^{モロトモ}生徒の生命を己がひきうけて果たせる今日の樂しかりけり

来客 なし

当番 神林武男、鈴木米蔵君、佐藤省吾君

四月十七日 金曜 朝⁵⁰人、昼⁵⁰人、晩⁵⁰人

所感

自治寮生諸兄の命を続けると云ふ重大なる任務の炊事当番も、是で三回目だ。飯を炊く事だけは余程自信がある様な気がする今、最初メツコ飯でないかと心配した時から、今迄を考へ現在を考へると、実に先生助手始め諸兄の御心切を感謝する。又今日は山形農事試験場見学の為残つて炊事をして下された人に御礼申し上げます。

来客 高橋猪一先生

当番 伊藤安男君、佐藤省吾、大沼三郎君

四月拾八日 土曜 朝⁴³人、昼⁴²人、晩³²人

所感

今日は面白く炊事に取着きました。朝の飯は釜に焼着きまして、中々なんぎをしてとりまし〔以下所々「す」を赤色で「し」と訂正してある〕た。午後より専売局に見学に行まして帰校しました所、省吾君は後になりまして、見兼たと云うて、炊事しながら俺等を待つて居た。炊事もよ程はかどつて居ました。後俺等二人は視察の気分が女工でさえあんなに真面目にやつて居るもの。俺だつて面白く真面目にやらうと思ひながらやりました。天んぷらの為におくれまして皆様に済ませませんでした。当番でも余り味見ない様にいたしましたしやう。

来客 高橋猪一先生二食

当番 佐藤省吾君、伊藤安男君、大沼三郎

四月十九日 日曜 朝あさ人、昼ひる人、晩ゆふ人

所感

生命を続ける大なる任務もこれで三回であります。御飯の炊き様も余程馴れて面白くなりました。而しこれで満足はして居りません。未だ未だ不得手の点が多いのであります。而るに此々に大過なく三日間の炊事の終る事の出来ましたのは、炊事諸君の御蔭であります。自治寮生活も三日ばかりしかありませんので、実に名残惜しいのであります。而しながら身体は別れても心は別れません。永久に御鞭撻を願ひたい。

来客 なし

当番 伊藤安男、大沼三郎、佐藤哲夫

4月20日 月曜 「朝昼晩、人数が未記入、所感も記入なし、来客と当番は赤色で記入」

来客 なし

当番 佐藤哲夫、押野登、遣水伊右エ門

四月廿一日 火曜 朝あさ人、昼ひる人、晩ゆふ人

所感

第三回目の当番であるので前回よりは余程馴れてる心算でやつたが、総べての点についてまだまだ努力と向上とに務めやうと覚悟して居ります。ことに菜、葱、馬鈴薯を切るにしても皆な修養であることを忘れずに追進し、農場に登つて一層真剣に働きたいと思つて居ります。

〔以下赤色で〕其の信念を一步一步実現に努力苦闘すべし。〔以上赤色〕

所感

食器の洗ひ方に注意すること。みだりに炊事場に入ることをやめてもらいたいです。

来客 なし

当番 佐藤哲夫、押野登、遣水伊右エ門

四月二十二日 水曜 朝四七人、昼四八人、晩〔未記入〕
所感

炊事当番第三回目であるが真剣味のない私は未だ不得手である。以て皆さんに満足を与へる事が出来なかつた事を遺憾と存じます。

〔以下赤色で〕桜の花も今や爛漫と咲かんとする時節、気温の関係が実に何んとも云へぬ植物の感恩感謝が一段と有難い。為めに今晚の御飯油揚飯だから知らぬが皆な舌鼓を打ちつゝ物も語らずお腹中につめこんで居る。実に炊事当番も愉快だつたでせう。〔以上赤色〕

来客 ナシ

当番 押野登、遣水伊右エ門、佐藤武男

四月二十三日 木曜 朝四七人、昼四七人、晩五十一人

所感

ナシ

〔以下赤色で〕今日は沢山なる所感が有ると思ふに書かんとは誠に真面目を欠いてる。晩は諸先生を招待して自治寮生活最後の御馳走を諸先生に！

餅を搗いて本当に今日の餅は一種独特の佳味を感じた様に思ふ。炊事当番は遅く迄御苦勞様でした。事に特別に応援の伊藤安男君等には厚く御礼申上げる。一同ニコニコで舌鼓打ち。〔以上赤色〕

来客 佐藤先生、安斉先生、駒谷先生、五十嵐先生

当番 石山正三、布施権三郎、佐藤武夫

四月二十四日 金曜 朝四七人、昼〔無記入〕、晩四十七人

所感

私も今度で炊事当番も三回目で自治寮生活に当番が終わりました。この度びこそは是非完全にはたす考へで取りかゝりましたが、今晚の御飯は盲飯メツクの様なご飯をたきまして御許し下さい。所感によつて御わび致します。

〔以下赤色で〕精神一到何事かならざらんの覚悟なかるべからず。自治寮生活も終りに近いので皆な気分がゆるんで来た。此の日誌を見ても充分窺はれる。人生の勝利正に最後の五分有るのに、十分此の意を体して終りを完全に果す様願ふ。〔以上赤色〕

来客 ナシ

当番 布施権三郎、佐藤武夫、石山正三

四月25日 土曜 朝⁵人、昼⁸人、晩⁵人

所感

自治寮生活廿五日にて終り、廿六日は秋田、石川翁、並ニ森川翁訪問短期旅行とす。庄内を廻り廿九日天長節の佳日帰所せるなり。所長高橋先生以下廿一名なり。

来客 ナシ

当番 布施権三郎、石山正三、菅原光胤